

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム青葉の家
(ユニット名)	3号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県豊橋市嵩山町字松田55
記入者名 (管理者)	平尾 三千枝
記入日	平成 20年 10月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	四季折々の中で自然と触れ合いながらできる。	○	地域と事業所の行事に参加し、季節の地域での観光におけるお互いの交流をより多く増やす。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	散歩に行ったりドライブに行き季節感を味わっています。	○	職員は理念を理解し有効に活かすことにより利用者により一層のよい支援を行っている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	毎月やまびこ新聞を発行し家族の方や地域の方に読んでいただいています。	○	運営推進会議に地域の方へ出席していただきその時理念を伝え理解をして頂いている。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩に行き季節感を味わっている。出掛けた時など挨拶をするよう心掛けている。	○	近隣からの利用者もあり、地方性もあり、気軽に声掛けができる。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	近隣の保育園や小学校と互い行事に参加して交流をもつことに努めています。	○	地域の情報などをより多く知り、多くの参加をするようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として学習の受け入れを積極的に行なっています。	○	今後も学生の実習の受け入れを人材育成の場として協力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上に努め定期部会各部会においてのカンファレンスで現状把握検討し、実践につなげるよう努力している。	○	職員で評価を行いサービスの向上につながるよう努めていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議でとりあげられた検討事項を報告しあい、また現在取り組んでいる事項内容についても報告し意見をもらっている。	○	地域福祉に関する方々による運営推進会議出席者の情報や意見を取り入れ早急に話したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と地域に密着したサービスを事業所の運営団体としておりその方向で協議を行う方策を取っている。	○	地域福祉関係者による運営推進会議出席者の情報、意見を取り入れサービスの質の向上に活かしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について利用者が利用するにあたり、社会福祉協議会と話し合い活用できるよう支援している。	○	必要な利用者には必要な事項を説明し、アドバイスし支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への虐待がないように常に注意を払っている。	○	朝礼や部会で高齢者虐待防止について理解を深めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者へのケアの取り組みに関する事柄を細かく説明し退去後支援可能な範囲での支援を地域社会医療連携の中で行っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者家族などが不安を持たないように時間を取り丁寧に説明し、理解して頂くようにする。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者さんの言動や起こされる行動、態度からその気持ちを察するように努力している。利用者の不安意見などは各ユニットで話し合うようにしている。</p>	<p>○</p> <p>家族の方の面会、市の介護相談員など通して利用者が外部に気持ちを表せる機会を作っています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の訪問時に生活ぶりや出来事や心身の状況について報告するようにしています。</p>	<p>○</p> <p>ご家族との良い関係を密にすることにより信頼感と利用者の安心感を一層深めていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が何でも言ってもらえるような雰囲気にし、その言葉をしっかりと受け止めるように心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>お気づき箱などを設け意見を聞かせていただきそれらを運営に取り入れていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の部会を行い、職員の意見要望を聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の意見を取り入れることにより質の向上になるように努める。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の要望や生活の保護可能な職員の配置を常に心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>職員の急な休みや退職時に応援してくれる人を確保できるように取り組んでいる。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心掛けている。新しい職員が入られた時皆さんに紹介し利用者からホームのことを教えてもらうようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の変動がない様に職員の勤務に無理のない様にする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>A課程、B課程、AA課程講習を受けそれぞれのレポート提出を義務付けている。</p>	<p>○</p> <p>職員各自が研修し講習を受け、レポート提出により再認識できるよう援助支援している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業所関連の交流研修会に参加し、質の向上を図っている。</p>	<p>○</p> <p>他の事業所の見学を増やし、質の向上に繋げて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>旅行や忘年会など職員の行事を行っている。又、利用者さんと共に楽しめるように季節の行事も工夫して行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員にそれぞれの感じ方により意見の相違もありそれを総合的に解決できるように個々に対応していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月一回の部会を開き、懇談会、質の向上に向けての互いの意見交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>気持ちよいやりがいのある仕事をする環境作りを心掛けていくようにする。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状態を把握するようにつとめ、職員が本人に受け入れてもらえるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が安心して生活できるよう対応に心を込めて行うようにする。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>居間までの家族の苦労や今までのサービス内容を詳しく聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者側の立場を理解し受け止め家族との信頼関係を築いていくように努める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事、本人や家族の思いを確認して可能な限り対応している。	○	地域包括支援センター、医療福祉事業所などの連携を密にしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、ご家族に何回でも見学に来てもらって安心感を持ってもらうようにしている。	○	利用者の生活の関わり合いの中で溶け込めるよう雰囲気作りを支援しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を協働しながら和やかな生活ができるようにしている。	○	信頼感・共感を持ち合える雰囲気作りを心がけていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を自分の家族のように思い一日を大事に過ごしていくようにしている。	○	介護していると思う気持ちも大事であるが家族の一員として受け止めて応対し努力する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、外泊などをしてもらい家族と一緒に過ごす事を勧めたり行事に参加してもらうようにしている。	○	本人・家族の気持ち、状況の理解につとめ共有する事により信頼感を持っていただけるよう支援の中に取り入れていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達などの面会をいつでも自由に出来るように配慮している。	○	利用者さんを支えてきた人達との交流を途切れないようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状態や感情が日々かわっていくので毎日注意深く見守りしている。	○	利用者さん各自の考え、思いを理解し気持ちのよい生活ができるよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所、医療施設に移られても面会に行っている。	○	利用者が他へ移られても面会する事での感情面でのケアをしてあげたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声がけにて言葉や行動表情を見て把握している。	○	過去の生活で得た次の人なりの心情、考え、その人の歴史と共に大切にしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個人のいままで終わってきた人生を大切にし、その気持ちの中で必要事項を抽出し、支援の中に取り入れている。	○	利用者の過去の暮らしの中での好み・楽しさ等の感情面を話の中で、受け止め大切にしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日朝バイタルチェックをしている。	○	その人らしい毎日を安心して過ごせるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回のカンファレンスを行っている。	○	モニタリングを定期的また必要に応じて介護計画を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護見直しを定期的におこない、急変時には御家族と連絡を取り、詳しい計画をたて支援をする。	○	常に利用者の生活に注意をおき、その状況に値した支援をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作り、変化の状態を記入している。バイタルチェック食事量便チェックなどしている。	○	介護詳細記録にて変化を記入し、状況の変化に対応した支援をしていくようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な体のケアに対して通院などをおこなっている。	○	本人ご家族の要望に応じ身体のケアを行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域社会の福祉関連の方々との情報を得て交流を多く持ち支援の向上を目指している。	○	地域ボランティアの方々による季節行事、幼稚園、教育関係との交流により地域社会とのつながりを大切にしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援、必要性に応じ本人の希望の基に訪問利用サービスを受けている。	○	利用者の生活の活性化を図る支援として行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に於いて地域包括支援センターの職員が参加され情報、協力を得ることができる。	○	定期的に会議を地域社会の福祉関係の方々ともち、事態にあたりスムーズな支援が出来る。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行が基本だがやむを得ない時職員が代行している。かかりつけの病院や医療関係と密にしている。	○	過去からの利用者の身体状況を把握しかかりつけ医により適切で早い対応が出来るように今後も努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族や職員の話をよく聞いてもらい支持や助言をもらっている。	○	受診後ご家族の都合のつかないとき、職員が受診を受けに行くようにしている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常に身近にいて職員と日常の健康管理をおこなっている。	○	職員、看護師が身体状況に細かいチェックを毎日している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時本人の気分落ち込みを防ぐため入院時訪問しコミュニケーションをとったり医療機関へ本人の情報を提供し早い回復につながるよう支援している。	○	利用者側が入院したとき安心してすごせるよう早期退院できるよう努めていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業として出来る範囲内で最大のケアをおこなうことの説明をしている。	○	本人はもとよりご家族の意向に沿って行っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として、出来る範囲でケアをおこない医療機関との連携をとっている。	○	常に医療機関の連携を取りその人に合ったケアをみつける支援をしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	地域包括支援センターから情報協力を頂きその地域の中でその人らしい生活を楽しむことが出来る様支援を行う。	○	本人御家族と話し合い地域での生活を楽しめるように情報交流のもと支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人が決めその人の生活を支援するよう声掛けをしている。また記録個人情報のとりあつかいに十分注意している。	○ 利用者本人の個性、生活観を大切にし、尊重して生活が送れるようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声掛け意思表示の困難な場合には表情や動作で読み取ったり小さなことでも本人が決める場を作っている。	○ 意思表示が困難な人の場合もあり正しく把握できるよう努めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日のリズムは持っているが、ひとりひとりの体調に合わせてその時の本人の気持ち尊重し散歩やレクリエーションと柔軟に対応している。	○ 体調、気分の変化に細かく気を配りあらゆる方向からの影響を考えケアに取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔から行っていたお気に入りの理美容院に行ったり、好みに合った方法を自己決定していくことで満足のいくよう支援している。	○ ご家族から本人の今までの生活の中から希望、好みを聞き合わせるようにしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなども職員とともにいたり利用者と同じテーブルを囲んで職員も一緒に食事をし、楽しい雰囲気でおいしく食べるようにしています。	○ 利用者と食後の食器拭きテーブル拭きなど軽作業をおこなっていただき、コミュニケーションを取りながら作業をすすめていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の好み、要求を取り入れておやつや飲み物を用意し楽しめるよう支援している。	○ AM10時・PM3時におやつ、飲み物を用意している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表を使用して尿意のない利用者にもトイレで排泄できるように支援している。排泄の習慣をつけていただく様に時間を決めてトイレ誘導をし排泄を促している。	○	チェック表で排泄を把握することに依り、スムーズに排泄介助が来ています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は楽しい一時と思っただけのように、お湯の調節をしたりお話をしたりとゆったり気分に入浴していただけるようにしています。足湯や肩湯をかけたりしています。	○	入浴時のリラックス気分により利用者の気分がほぐれ会話がありコミュニケーションがとれる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はなるべく行動していただき夜は寝ていただくように生活リズム作りに支援しています。	○	体力体調にあわせひとりひとりの生活リズムを大切にして健康な日々を送る支援をしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活感により任意で上手な分野を活用したり軽作業の中での張り合いを見つけられて生活の中で楽しみを持てる支援をしている。	○	1つの役割を持つことで張りがある一日を送ることが出来るのでそれぞれに適したことをしていただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好みの食べ物ほしいものを隣接している施設の売店で買えるように支援している。	○	ほしいものの申し出があったときはそのものを求められる店が遠い場合は車に乗っていただき求めている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接の施設売店にて買い物したり散歩など言葉かけし希望により戸外に出掛けられるよう支援している。	○	戸外に出て環境の変化により活気のある日が送られるように支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と連絡を取り、ご家族とともに外出又はドライブ・レク・居室地域行事など出掛けられる機会を作っている。	○	行楽により季節感をもっていただけるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りでの家族や親しい人への交流を支援している。	○	手紙を出しに行ったり電話を掛けたいときに取り次ぎをおこなっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人友人が都合のよい時間に来ていただき、ひとときを和やかに居心地の良いときを過ごせるよう配慮している。	○	面会者に和やかな中で接待し、利用者と気兼ねなく過ごせるような空間づくりをして支援していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。	○	生命や身体に危機がみられない限りは制限は行わない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者からの要望以外は居室に鍵を掛けない支援をしている。	○	自室内からのロックはずしは可能であるが室外は出来ないの他者の入室防止の為の本人希望申し出により行う。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者にとってくつろいだ安楽な生活を持って頂く為に、視野内にて見守りをしていく。	○	プライドを傷つけないようにしたら安楽な日を過ごしていただくよう見守っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は家族や本人に理解していただき預かり保管している。	○	使用後危険と思われるものは職員の見守りの中でおこない後預かっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのケアの取り組みをしっかり行い、もし事故発生時はすみやかに対応し、事故報告書作成しその原因追及と予防対策をおこなっている。	○	事故のない様視野内にてしっかり見守りを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施している。	○	常に事故発生時に備え、職員が適切な対応が出来る様取り組んでいる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的実施している。	○	利用者の積極的な参加を得て避難訓練を職員とともにやっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事業所の取り組み方を説明し理解を得ている。	○	定期的、必要時に一人一人についてのカンファレンスにより話し合い家族へ報告している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを一人一人細かく毎日行い体調、表情、言動の変化を見守り気付いた事があれば管理者に報告し職員が対応に当たっている。	○	早期発見と対応に心掛けてケアを行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理服用にあたり一人一人の使用薬量を把握し三重チェックで間違いのないようにしている。	○	服薬用の間違わないように職員が利用者の薬の目的使用量用法を理解している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作り排泄の状況を把握し便秘を見透かさないように支援している。	○	水分摂取を多くしたり便秘にならないように食べ物・飲み物をおやつで工夫している。温かい蒸しタオルで腹部にあて排便支援をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄やうがい薬を使いうがいをやっている。	○	毎食後の口腔ケアを職員が支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのある食事をとり、水分摂取も一日必要量を確保できるように支援している。	○	カロリー栄養分においてバランスの取れた食事をしている。水分摂取もおやつなどにより取っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	石鹸使用し手洗いを励行している。ウルトラサンを使い消毒をしている。イソジンでうがいをしている。	○	外出からの帰宅時に石鹸でしっかり手洗いしうがいをしている。食事前の手洗い消毒をし食後うがいをしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は消毒をし、食材については賞味期限を守っている。冷蔵庫の中の整理チェック、清潔に配慮している。	○	清潔に保つように支援し感染症について地域流行情報などにして早期対応している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族、知人の方たちが訪問して来ている。楽しげに和らいだ面会の元、行われている。	○	親しみやすく安心して穏やかなときを過ごすことが出来る様支援していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に恵まれた環境を利用し、周りの山々、鳥の季節感を取り入れ行事、活動をおこなっている。	○	散歩をしたりして季節感を十分味わい気持ちよい空間を持つ機会を多く持つよう支援していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	虐待について職員が認識し、一人一人が単独であったら仲間同士であったり思い思いに過ごせるような居場所のあるよう支援している。	○	気の合った仲間同士でかたまり仲間に入りたくても入れない利用者同士の間に入りコミュニケーションがとれるよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中で好む物を身近に置きたいと会話の中での希望が見えた場合、ケアの中に取り入れている。	○	穏やかで楽しい毎日を過ごしていただくようにしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除後、必要時換気を常に心がけ室温調節をおこない体に心地よい環境作りに配慮している。	○	毎朝換気を行っている。温度調節、湿度調整を行い体調を崩さぬよう支援している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内での一人一人の動きを、出来る限り自立目標とし安全に行えるよう視野内でしっかり見守って支援している。	○	一日の動作の中で出来る限り自力で行うことが出来るように声掛け見守りをし危険がない様環境を整えている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の力を活かし、失敗危険を防ぎ自信につなげ自立が出来るように支援していく。	○	何が出来るか何を好むかを見出し楽しく生活できるよう支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員が季節の野菜作りをし利用者が取入れで楽しみながらの活動を行っている。	○	自然に恵まれている戸外に出て歩くだけでも目が生き生きとしてくる。この環境のなかでの活動を大切にしていく。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの名の如く家庭、家族として毎日生活を楽しく活気あるものにして行きたいと思っている。性格、身体状況の変化を持っている兄弟姉妹のいる家族として一人一人を見つめ個性を重んじ、生活を送る支援をして行きたいと思い、また行っています。